

2. 早期教育の実例

ハーバードの奇跡!

アメリカのハーバード大学(世界No1の大学)をたった15才で卒業してしまったサイディス少年は、6才の時、他の子どもたちとともに1年生として小学校に入学しましたが、お母さんが12時に学校に迎えに行ってみると、もうすでに3年生になっていました。そしてその年のうちに小学校を卒業してしまい、11才でハーバード大学に合格しました。サイディス君の途方もない学力はたちまち有名になりました。マサチューセッツ大学工学院の教授がドイツで博士試験を受けた時に出題されて非常に困った難解な問題も、9才の時に瞬時に解いてしまうほどでした。

同じ頃、パール少年は13才でハーバード大学に入学、わずか3年で卒業してしまいました。また同じ頃、ウィナー少年は10才でタクト大学に入学、14才で卒業、さらにサイディス君、パール君のいたハーバードの大学院に進み、18才で哲学博士の学位を得ました。

当時、まったく同じ時期にこのような3人の神童がハーバード大学に出現したことは奇跡とされ、大騒動になりました。ところが、この偉大なる3人の神童には、ある共通点があることがわかりました。それは彼らの親たちがハーバード大学図書館に1冊だけ残っていた「**カール・ビッテの教育法**」を彼らの教育に取り入れていたことでした。

その後、3人の神童たちは全員、世界的に著名で偉大な人物になっていきました。例えばウィナー少年は、後に教授となり、情報と制御の学問「サイバネティクス理論」を創設しました。アメリカの人工衛星やスペースシャトルなどはこの理論から構築されています。もしカール・ビッテの教育法を受けたウィナー少年がいなかったら、史上初の月面着陸船アポロ11号は存在せず、人類は月に行くことができなかったであろうとされています。

アメリカのピッツバーグ大学の教授、ストーナー夫人もカール・ビッテの教育法を取り入れた1人です。彼女は自分の娘ウィニフレッドが生まれた瞬間から、話しかけて育てました。周りにある1つ1つのものを指して、はっきりした声でその名前を教えました。その結果、ウィニフレッドちゃんは満1才でまるで大人のように話せるようになりました。その後、3才か

ら詩文を書くようになり、4才の時にはエスペラント語で劇を書きました。ウィニフレッドちゃんの詩や劇は出版され、大好評を博しました。5才になる前には、8カ国語で自分の意志を語ることができ、「奇跡だ!」「天才少女だ!」と賞賛の的となりました。

このように、子どもたちが驚異的な成長を遂げることができ、世界的に著名な天才も数多く生まれている「**カール・ビッテの早期教育法**」は、21世紀の教育法として世界的に注目されてきています。

